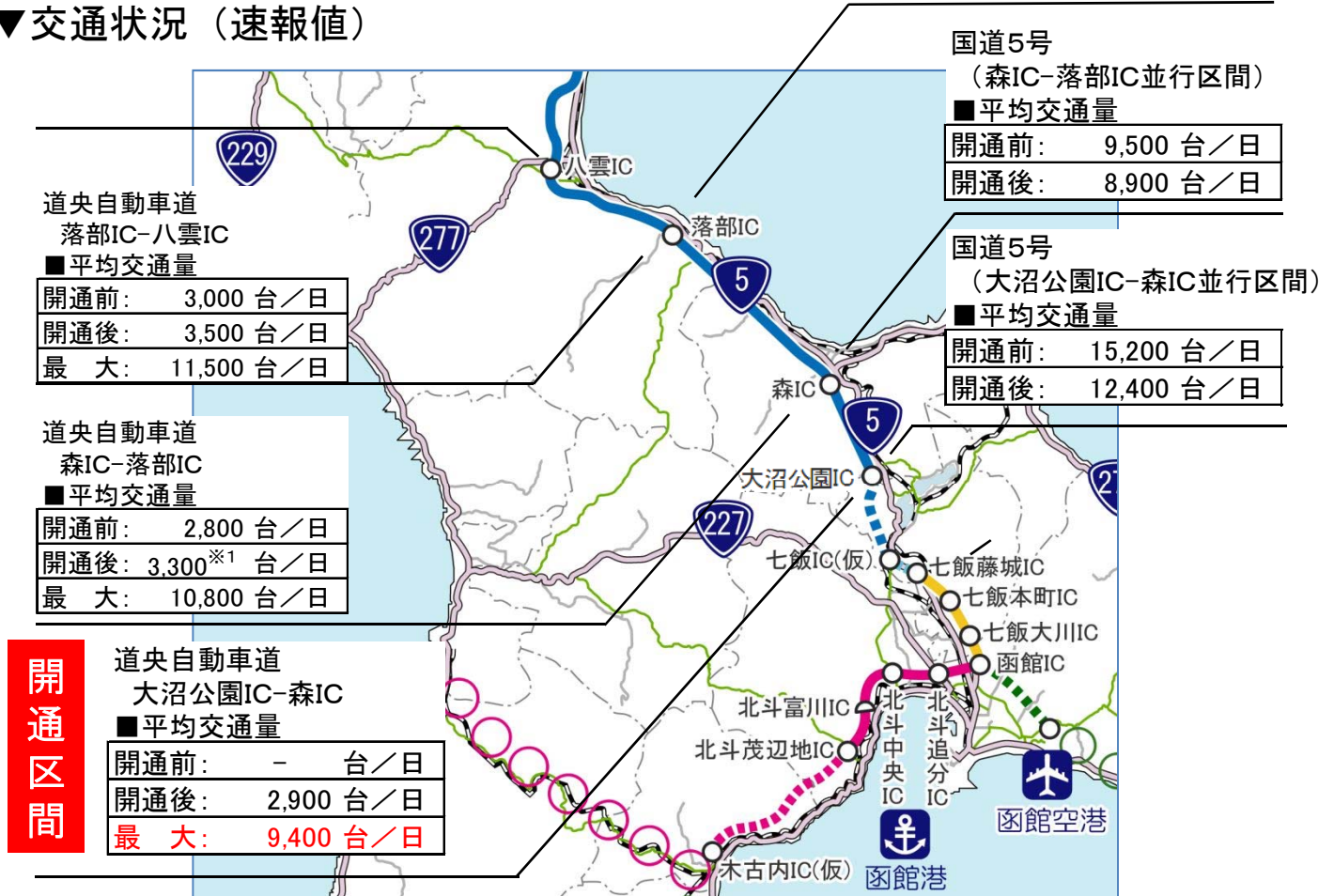


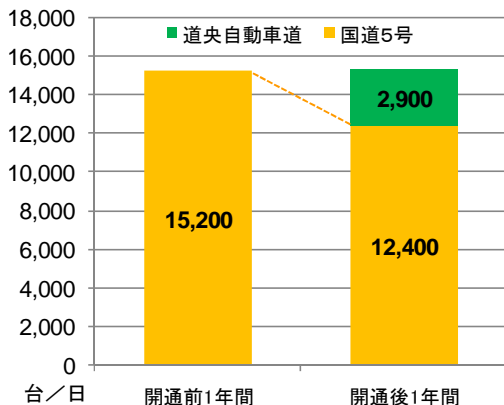
道央自動車道(大沼公園IC～森IC) 開通後1年間の交通状況について

- ・大沼公園IC～森IC間開通後1年間の交通量は、1年間平均で2,900台/日、GW時期には最大で1日9,400台が利用。

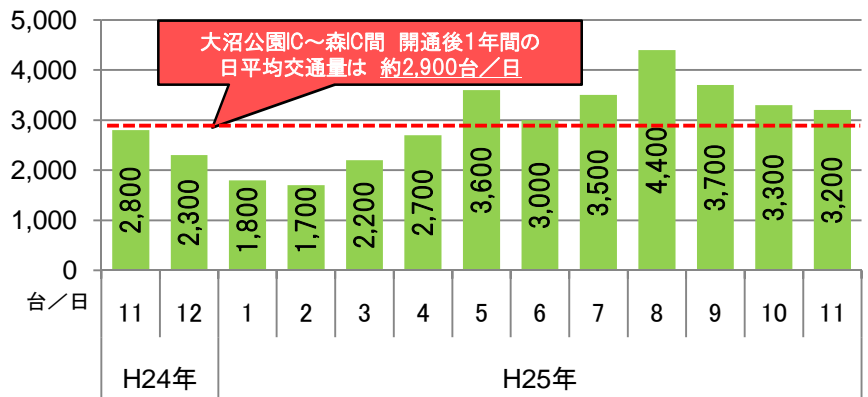
▼交通状況(速報値)



・並行する一般国道5号との比較 (大沼公園IC～森IC間)



・月別推移(大沼公園IC～森IC間)



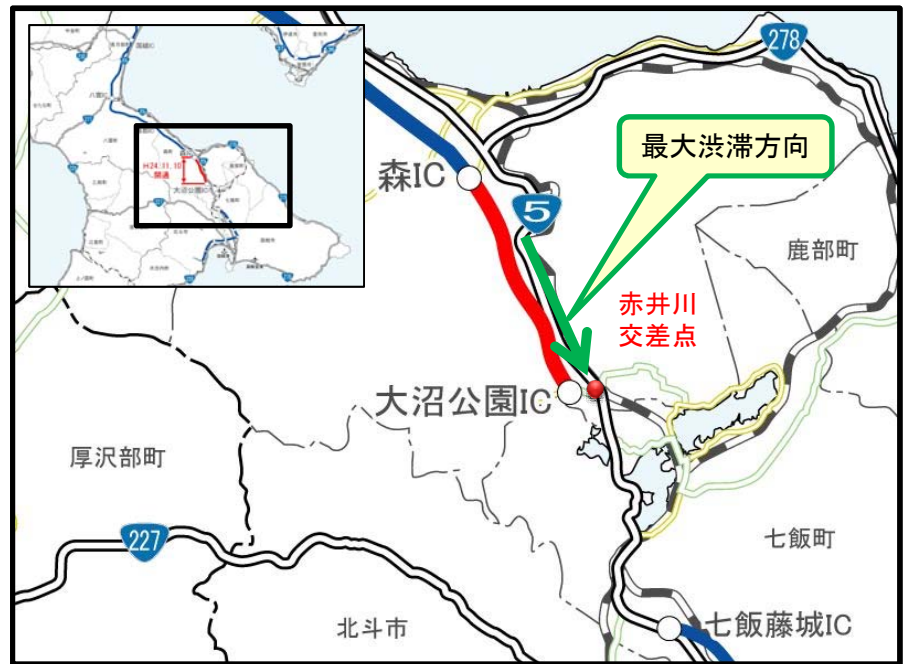
・開通前: 開通前1年間の日平均交通量[H23.11.11(金)～H24.11.10(土)]
 ・開通後: 開通後1年間の日平均交通量[H24.11.11(日)～H25.11.10(日)]
 ・最大: 開通後1年間の道央自動車道最大交通量[大沼公園IC～森IC:
 H25.5.5(日)、森IC～落部IC及び落部IC～八雲IC:H25.5.3(金)]
 ※1:[H23.11.27(日)～H24.11.10(土)]

・道央道: NEXCO東日本交通量データ(概数値)
 H25.10.1(火)～11.10(日)までのデータはトラフィックカウンターによる速報値
 ・国道: トラフィックカウンターによる速報値

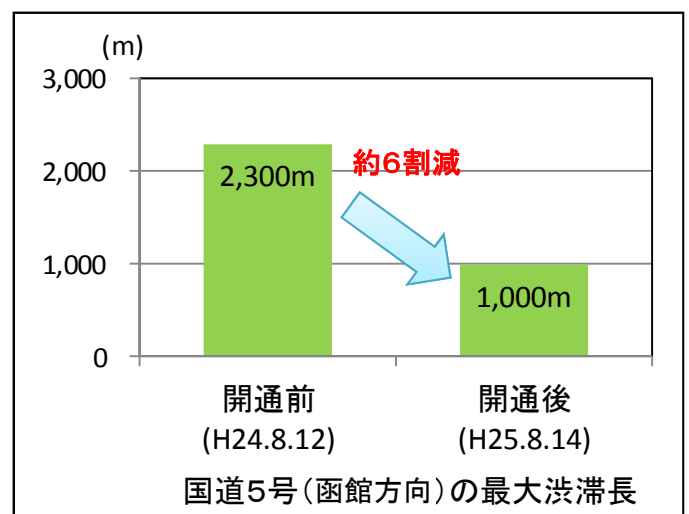
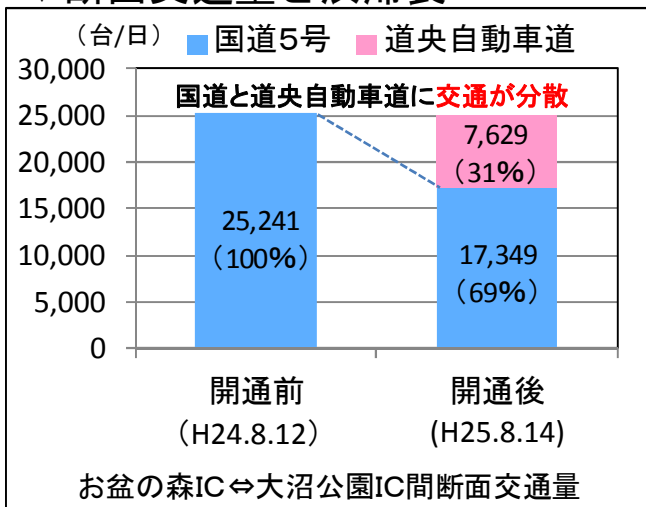
【渋滞】混雑期の渋滞緩和

- ・ 国道5号の交通量は、道央自動車道開通後、交通が分散され、**函館方向のお盆時期における渋滞長は開通前と比較して約6割減少**。

▼国道5号における渋滞状況



▼断面交通量と渋滞長

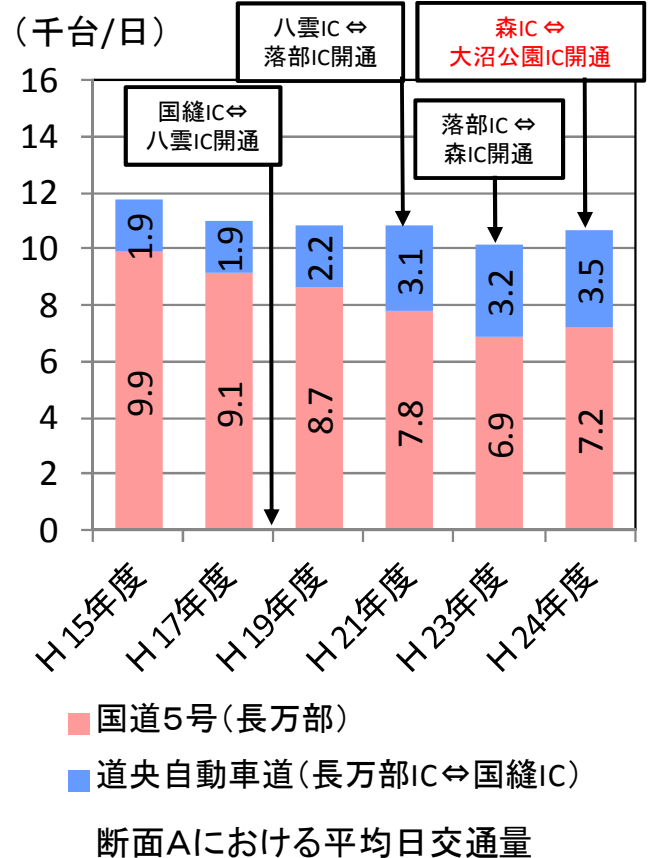


渋滞長調査(開通前:H24.8.12、開通後:H25.8.14)

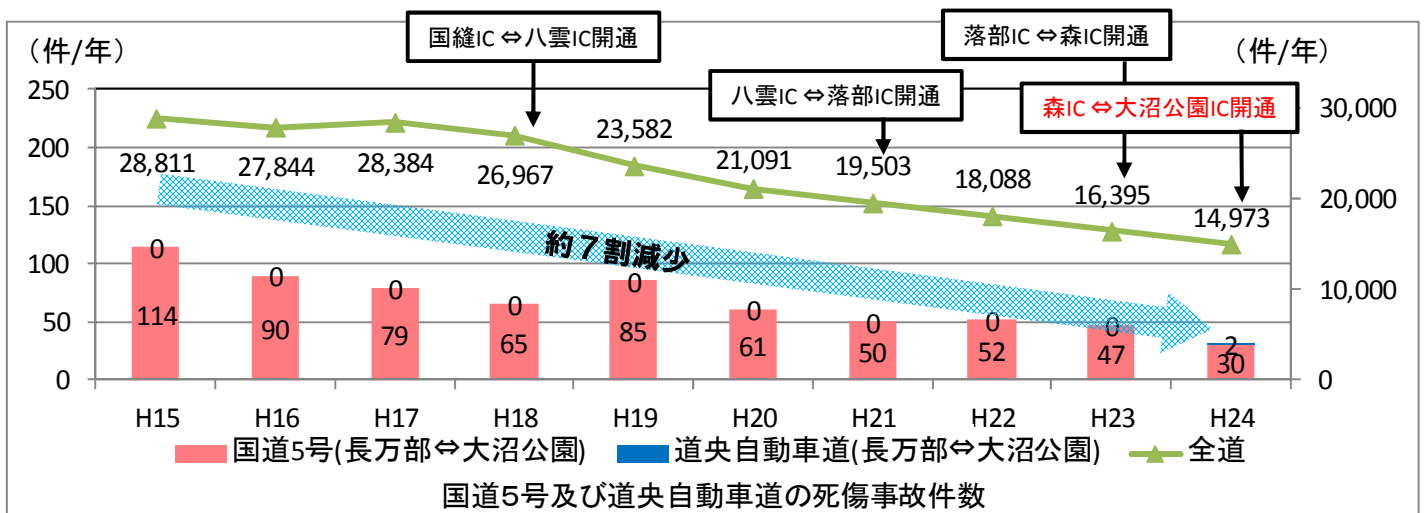
- ・ 国道の渋滞が少なくなったため、お客様が予約時間に遅れることがなくなりました。観光客を受け入れる側としても、お客様を案内する計画が立てやすくなりました。道央方面からのお客様はほとんど高速道路を利用されており、お客様の利便性も向上したと思います。
(大沼公園IC周辺観光施設の声)

【安全】交通事故の減少

- 大沼公園 I C までの延伸により安全性の高い道央自動車道を利用する人が増加し、長万部から大沼公園までの**死傷事故件数は過去 10 年間で約 7 割減少**。



資料：トラフィックカウンターによる速報値（概数値）

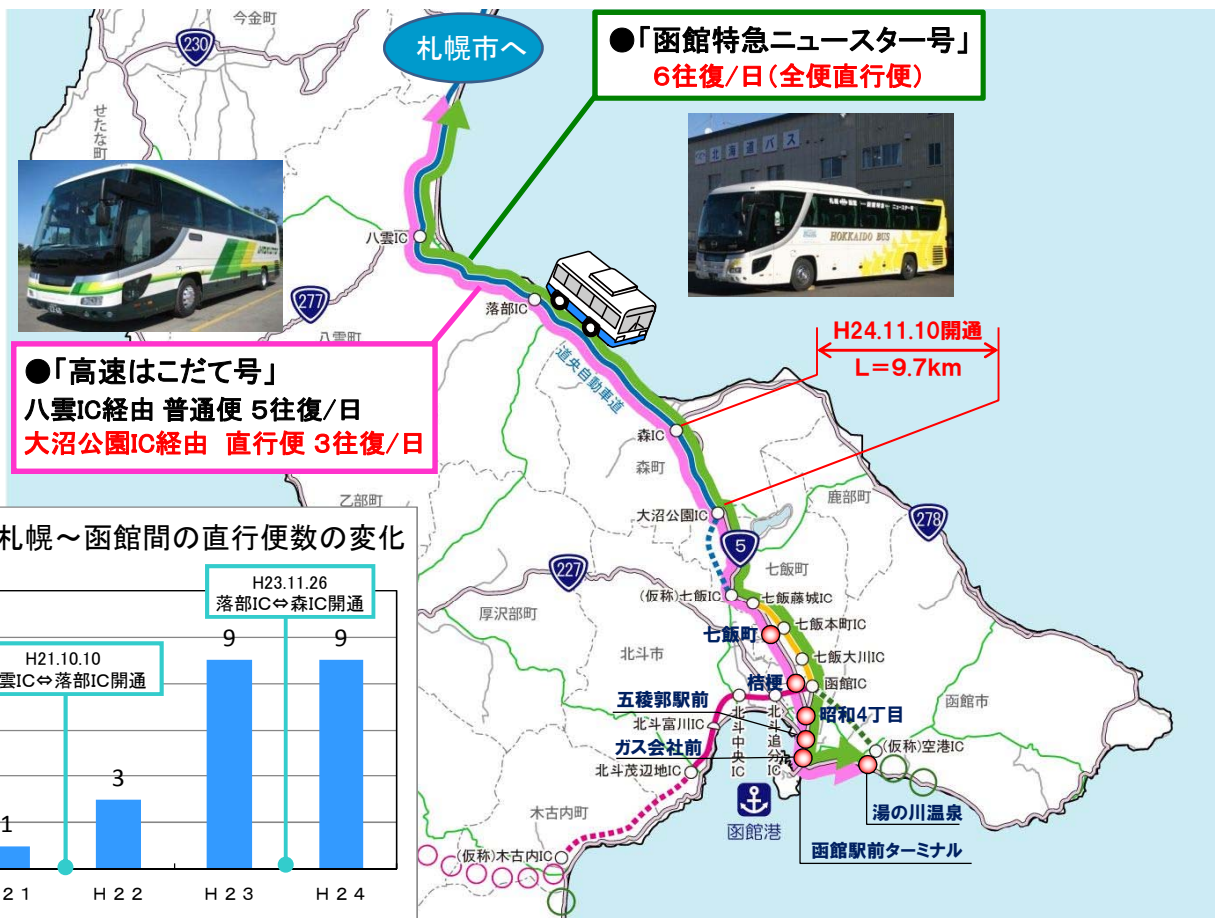


資料：ITARDAデータ

【交流】高速都市間バスの利用利便性向上

- 札幌～函館間には、都市間高速バスが運行されており、この内直行便の9往復／日（全社合計）が大沼公園ICまで走行。
- 走行時間の短縮と安全性・快適性向上により利用者サービスが向上。

■都市間高速バスの運行ルート



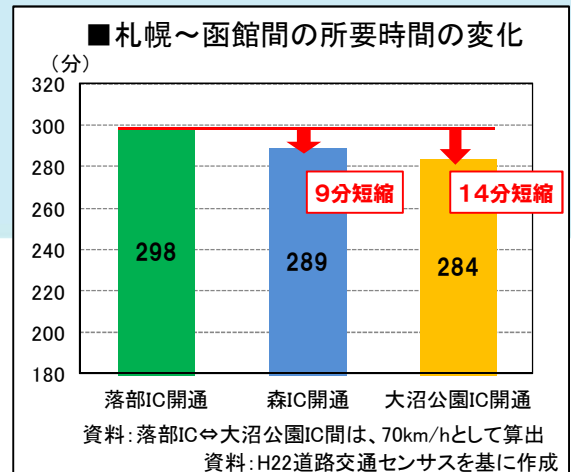
※「直行便」とは、森町などに途中停車せずに函館市内まで直行する便をさす。

資料：北海道中央バス、北海道バス時刻表

※図中の運行ルートは、「函館特急ニュースター号」及び「高速はこだて号」の直行便のルート

- 高速道路がさらに延伸したことにより、定時運行や快適性の向上などお客様への一層のサービス向上を図ることができました。
- 高速道路が延びるにつれ、利用区間も延ばしてきました。一昨年の森IC、そして昨年の大沼公園ICへの延伸供用を大変喜んでます。

(都市間バス運行会社社員の声)

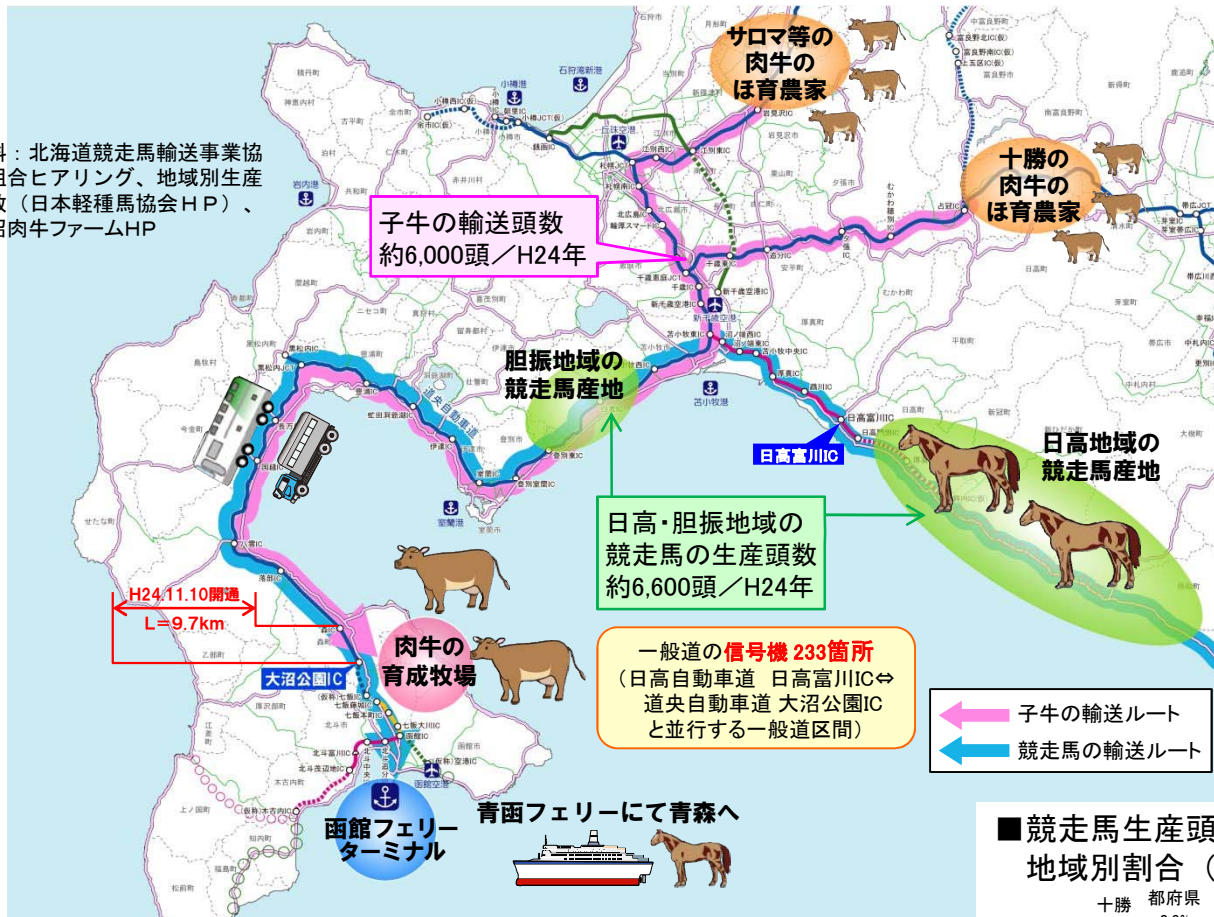


【物流】肉牛や競走馬の流通利便性向上

- ・ 北海道の日高・胆振地域は、競走馬生産で全国の97%を占める一大産地。また、駒ヶ岳山麓では子牛を肉牛に育成し、「はこだて大沼牛」等のブランド牛肉として全国へ出荷。
- ・ 子牛や競走馬の輸送に際しては、ストレス軽減や万一の対応に備えるため、**輸送時間の最大限の短縮及び揺れの抑制が最重要課題**となっており、**高速道路の利用が必須**。
- ・ 大沼公園IC～森ICの供用により、子牛や競走馬の輸送の迅速性・安全性・利便性がさらに向上。

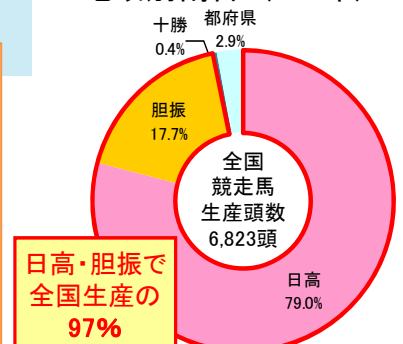
■ 子牛及び競走馬の輸送状況

資料：北海道競走馬輸送事業協同組合ヒアリング、地域別生産頭数（日本軽種馬協会HP）、大沼肉牛ファームHP



- ・ 子牛の輸送時は、必ず高速道路を使うようにしています。牧場は七飯町にあるため、新しく大沼公園ICが開通したおかげでさらに近くなり、大変便利になりました。（育成牧場の声）
- ・ 競走馬の輸送に際しては、速く、静かに、安全に運ぶことが求められるため、高速道路を100%利用して函館フェリーターミナルまで行きます。この度の延伸でさらに函館が近くなり、輸送の利便性が高まりました。（競走馬運送業者の声）

■ 競走馬生産頭数の地域別割合（H24年）



資料：地域別生産頭数（日本軽種馬協会HP）

【医療】救急搬送の迅速性・安定性向上に貢献

- ・ 大沼公園IC～森ICの開通により森⇄大沼公園間の**救急搬送時間が3分以上短縮**（9分32秒→6分12秒）されるなど、**いち早く病院での処置が可能に**。
- ・ 帰署にかかる時間も短縮され救急隊員・医師・看護師の不在時間が短縮され、地域の医療体制確保に寄与。
- ・ 高速道路は国道に比べゆれが小さく、搬送患者の負担が軽減。

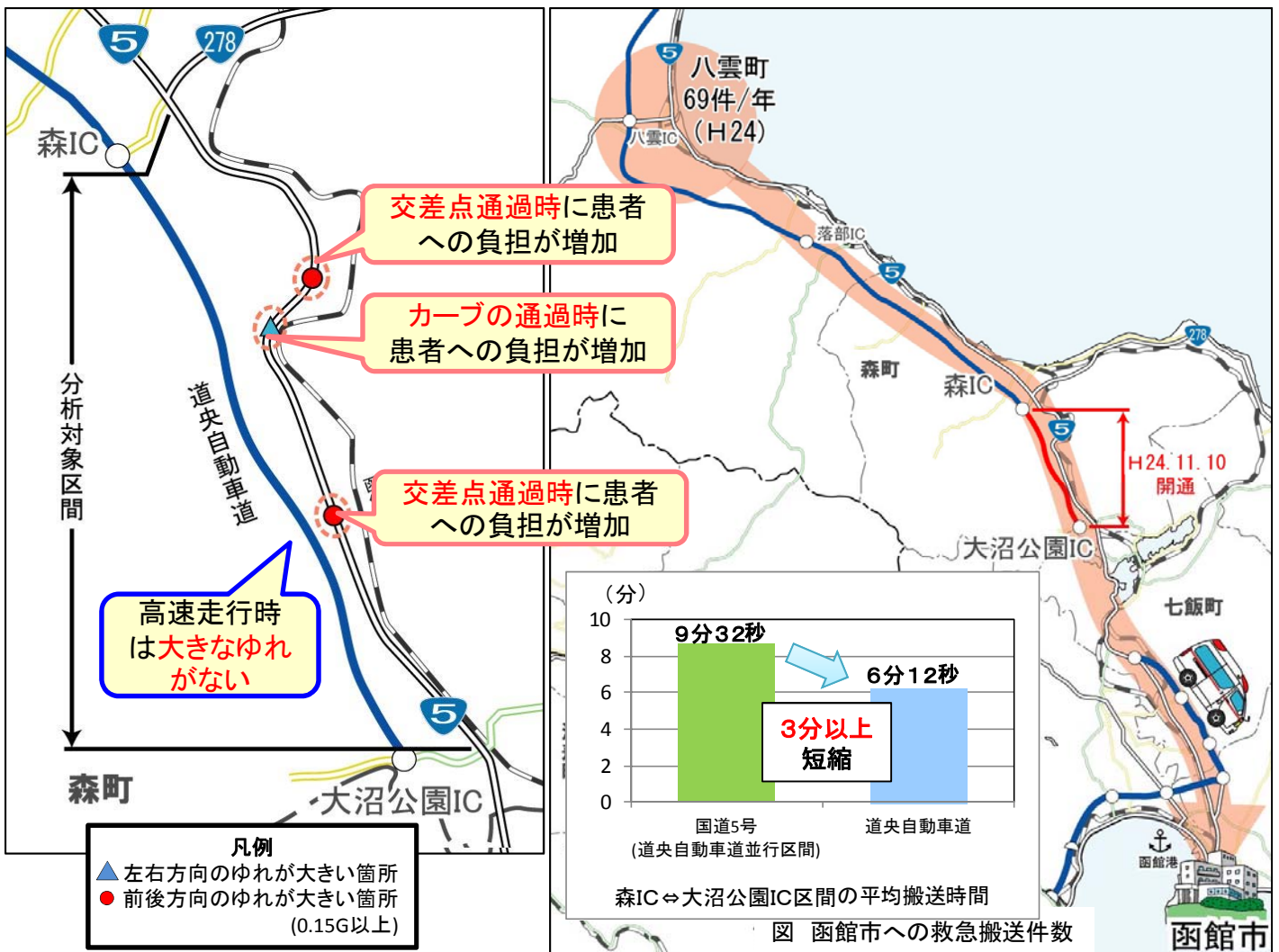


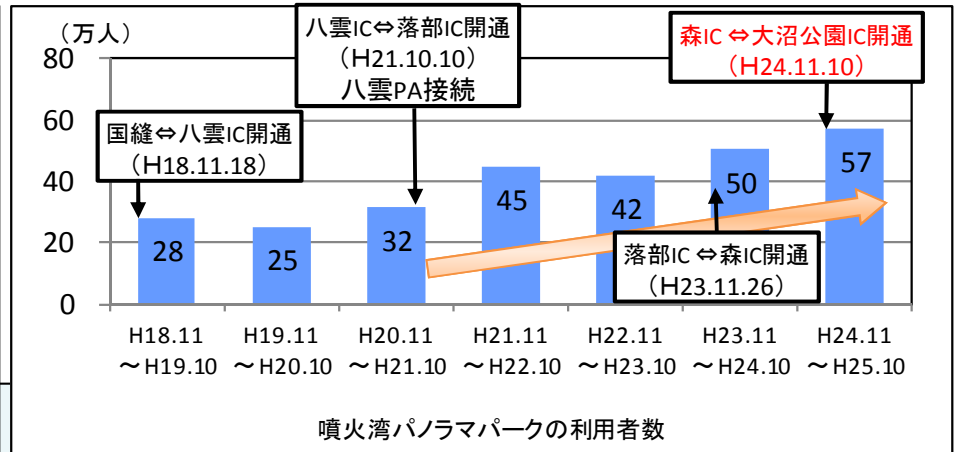
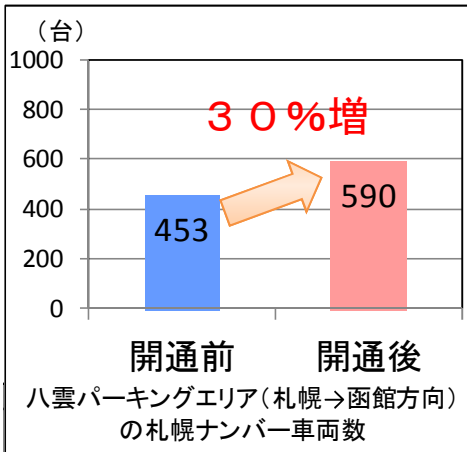
図 救急搬送時の患者負担増加箇所

搬送時間: 救急車実走データ, 搬送件数: 八雲消防署 (※旧熊石町からの搬送件数を除く)

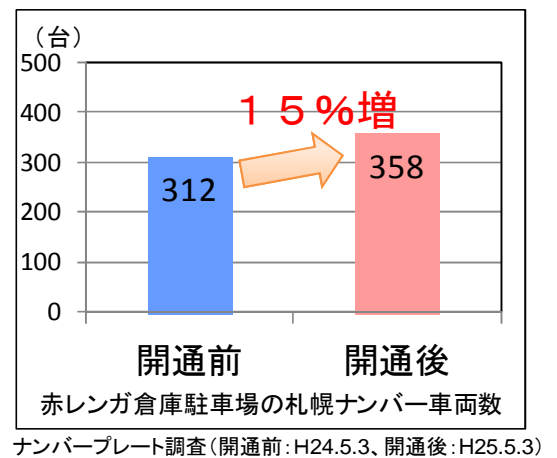
- ・ 大沼公園ICまで開通したことで時間短縮が見込め、利用するようになりました。
- ・ 脳疾患や心疾患等の重症患者は函館に搬送しています。特に脳疾患患者はゆれによる影響が大きく、搬送患者の負担が軽減されています。
- ・ 大沼公園ICから更に延伸されると、搬送時間がより短縮され、搬送時のゆれを軽減できることから期待しています。
(八雲消防署救急隊員の声)

【観光】地域観光の活性化

- ・ アクセス向上により道央方面からの来訪者が増加
- ・ 大沼公園IC周辺施設では入込客数が増加



資料: 北海道渡島総合振興局函館建設管理部



- ・ 森IC開通の頃から、高速道路を利用してくるお客さんが増えているという実感があります。大沼公園ICから下りてすぐの場所にあり、うちの店を目的にこられるお客さんも多いようです。(国道沿いの飲食店の声)
- ・ 大沼公園IC開通後、宿泊客が1割程増加しました。札幌・北見・釧路など遠方からのお客が増えています。ICからの近さはアピールポイントになるので、今後も営業時にはPRに使って行きたいと思っております。(大沼宿泊施設の声)